教材・支援機器活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(29)年度
兼につい	大阪中及 テロル	じゃんけんルールの理解の支援
	教科名等	□国語 □社会 □算数/数学 □理科 ■生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術·家庭 □体育/保健体育 □道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 □特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導 □その他の教科 □その他()
	単元·題材名	じゃんけんのルール
	授業の目標	遊びの指導として、じゃんけんのルールの理解を支援する
	観点別学習状況の評価の 観点	■「知識・理解」 □「技能」 □「思考・判断・表現」 □「関心・意欲・態度」 □その他()
学習集団と子供の実態	学校·学部·学年·人数	 □通常の学級 □通級による指導 □特別支援学級 ■特別支援学校
		□就学前 ■小学生 □中学生 □高校生以降 □特定されない
		(高学)年 (3)人
	対象の障害	□視覚障害 □聴覚障害 ■知的障害 □肢体不自由 □病弱·身体虚弱 □言語障害 □自閉症 □情緒障害 □LD(学習障害) □ADHD(注意欠陥/多動性障害) □その他
	子供の課題 (特性・ニーズ)	□見る □聞く □話す □読む □書く □計算する □推論する □運動と姿勢 ■日常生活活動 □不注意 □多動性-衝動性 ■社会性・コミュニケーション □覚える・理解する □その他
		日常生活の中でじゃんけんを行なっているが、勝敗のルールや実践方法に関する理解が十分ではなかった。 余暇活動では、じゃんけんを行うことが多いため、じゃんけんのルールの理解と実践の指導を行なった。
ICT活用	使用した支援機器・教材の 名称と画像	機器 : iPad アプリケーション : じゃんけんアプリ
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(□A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(□B1情報入手支援 □B2機器操作支援 □B3時間支援) C学習支援(□C1教科学習支援 □C2認知発達支援 ■C3社会生活支援)
		じゃんけんのルールを理解し、実践できるようにすること
授業における支援授業展開	授業展開と画像	iPadのじゃんけんアプリを活用して、じゃんけんを実践しながら、ルールの理解を促した。 今回活用したじゃんけんあぷりは、相手(コンピューター)の手が画面上から下に降りてきて、その手が画面上に戻り見えなくなるまでに、 画面のなかのグー、チョキ、パーの3つのボタンから選択するというものであった。 ユーザーは、相手の指し手が明らかとなった上で、ボタンを選択することができるため、勝ちつづけることができる。更に、自分の選んだ 手が「勝ち」の場合は○、「負け」・「あいこ」の場合は×、と評価が下されるため、勝ち負けのルールを理解しやすい。1実践あたり5分間 の間に実施した回数、及び性回数・不正回数を記録して、正答率を出した。
効 無 価 評	子供の様子や変容 および授業の評価	全ての生徒の正答率が上昇した。